



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 213

2014/05/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 川の水で木を流す

02. マルハナバチの住みわけ



今月の一枚



「川の倒木を片付ける」

表紙写真／美幌博物館・文／鬼丸和幸

かつて「流送（りゅうそう）」と言って、山で伐り出した木材を、川を利用して運んでいた時代がありました。川の数カ所に関が作られ、ためられた水を一気に開放して、木材を流下させました。人力で関をこわして水を流す作業は、常に危険が伴いました。川にたまった木は、流送に支障をきたすため、写真のように支障木を取り除く作業が行われていました。

Event. 今月のイベント

企画展「よみがえる！美幌川」 ～6月1日（日）

子どもの日 記念行事 5月5日（月） 無料開館

プチ工房「牛乳パックのブーメラン」 5月8日（木）, 15日（木）

モノ作り講座「ヘンプを使ったブレスレット」 5月16日（金）, 17日（土）

第14回淡水魚保護フォーラム・平成26年度美幌博物館フォーラム

「手作り魚道から始まる地域の自然再生」 5月24日（土）

Information. 参加者募集

子どもの日 記念行事

●5/5（月）9:30 - 17:00 ●美幌博物館 ●企画展「よみがえる！美幌川」展示解説, かしわもちの無料配布（先着500名）, 昔なつかしいせんべい焼き体験, カーネーションのマグネット作り体験など

プチ工房 「牛乳パックのブーメラン」

●5/8（木）, 15（木）10:00 - 12:00, 13:00 - 16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（20円） ●城坂結実（美幌博物館） ●申込み不要

モノ作り講座 「ヘンプを使ったブレスレット」

●5/16（金）, 17（土）【午前の部】10:00 - 12:00 【午後の部】13:30 - 15:30 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（200円） ●八重柏誠（美幌博物館） ●美幌博物館へ電話申込み（5/1 - 5/14）。対象は小学4年生から一般、小学生は保護者の同伴が必要。各回定員16名で締切。

第14回淡水魚保護フォーラム・平成26年度美幌博物館フォーラム

「手作り魚道から始まる地域の自然再生」

●5/24（土）14:00 - 18:00 ●しゃきっとプラザ 1F 集団健診ホール ●無料 ●ト部浩一（北海道立総合研究機構）, 牛山克巳（宮島沼水鳥湿地センター）, 長坂有（北海道立総合研究機構）, 橋本光三（駒生川に魚道をつくる会）, 町田善康（美幌博物館） ●申込み不要

第2回 自然講座 「みんなで探ろう！タンポポ合戦のなぞ」

【講演会】 ●6/7（土）16:00 - 17:30 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●西田佐知子（名古屋大学博物館） ●申込み不要 【観察会】 ●6/8（日）9:00 - 12:00 ●美幌町内 ●保険料（100円）, 野外で活動できる服装、雨具 ●西田佐知子（名古屋大学博物館） ●美幌博物館へ電話申込み（5/1 - 6/4）。キャンセルは6/4（水）まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は小学4年生から一般、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員25名で締切。

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

今月の休館日

7日, 12日
19日, 26日

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

川の水で 木を流す

写真・文／鬼丸和幸



博物館の第一展示室には、その昔、山で伐った木を、川の水流を利用して下流部へと運ぶ“流送（りゅうそう）”のしくみを、模型や解説パネルで紹介したコーナーがあります。これまで、実際の水を流した模型を展示していましたが、展示管理上、不具合が生じたため、水を使用しない模型に作り替え、リニューアルさせました。

川を利用して木を運ぶために、まず川の数カ所に木材を組んだ関（受堤：じゅてい）を設置します。伐り出した木を、この関内に運び入れ、川の水をためておきます。そして、人力で関の一部を壊して水を開放すると、その水の勢いで、木材が下流へと流れていくというしくみです。

一般に流送は、雪解け水で川が増水する時期に行われました。美幌では、現在の上美幌橋付近（美幌町美和地区）

に、流送用の関があったことがわかっています。流送は、勢い良く流れていく木材が、川岸を傷めたりして被害を及ぼすこともあり、やがて衰退していききました。

流送模型に隣接して、川の水を動力の元にしたデンプン工場模型も、新しく作り直してあります。より、リアルな雰囲気で、デンプン工場の内部を見ることができます。

ぜひ、リニューアルしました流送展示コーナーをご覧くださいと思います。展示作業に、ご協力いただきました学芸協力員らのみなさま、本当にありがとうございました。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

マルハナバチの 住みわけ

写真・文／城坂結実



暖かくなり、野外で昆虫を目にする機会も多くなりました。特に4月中旬～5月下旬は、体が大きくて、羽音が大きなマルハナバチの女王が目(耳に?)つきます。「ぶ～ん」という低音を響かせて森の中を飛ぶ様子は、「春だ！みんな起きろ～」と生きものたちに触れ回っているようで、微笑ましい光景です。

さて、一口にマルハナバチといっても、北海道には11種類のマルハナバチがくらしています(エゾナガマルハナバチ・エゾトラマルハナバチ・ミヤママルハナバチ・シュレンクマルハナバチ・ハイイロマルハナバチ・ニセハイイロマルハナバチ・エゾコマルハナバチ・アカマルハナバチ・エゾヒメマルハナバチ・エゾオオマルハナバチ・ノサップマルハナバチ)。おっと…特定外来生物のセイヨウオオマルハナバチを含めれば12種類です。この中

には、平地で普通に観察できる種類もいれば、根室半島周辺でしか見られないノサップマルハナバチのような種類もあります。また、ナガマルハナバチやエゾヒメマルハナバチは、標高が高い場所でくらしていたりと、マルハナバチは、種類同士で住む場所が重ならないように住みわけをしています。

高山帯を好むエゾヒメマルハナバチは、北海道の屋根、大雪山の高山帯などでみられます。写真は、トムラウシ山にも近いヒサゴ沼で撮影したもので、アザミ類の花蜜を吸っているエゾヒメマルハナバチです。平地にいるマルハナバチに比べて、とても小さな体をしているので、「姫」の愛称がピッタリ。美幌町ではまだ見かけていませんが、もしかしたら、美幌峠周辺にいるかもしれません。平地では見かけないマルハナバチがいたら、ぜひご一報下さい。

平成 26 年度の自然・歴史講座,モノ作り講座,プチ工房の日程が決まりました！

ホームページで、日程表をご覧ください。

今年度も、みなさんのご参加をお待ちしております。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員^補のつぶやき



モノ作り講座の試作をしていると、予想以上に上手くできた！ということがあります。自己満足もいいところですが、うれしい瞬間です。先日は、かわいい「どうぶつキャンドル（7月プチ工房）」ができました。ぜひ、ご参加下さい。（城坂）